

工学部ガイダンス 20030403
教務委員長あいさつ骨子 (10分を目安)

1. **教務委員長とは何者か**

学部全体の教育システム全般を検討し建議する委員会の長である。

2. **メモ魔になることを薦めます。**

人間は忘れます。聞いているときには、わかったような気持ちになりますが、それは100%蓄積されて有効利用されると思ったら大間違い。はがきサイズのノートが良い。いつでもポケットに入れて持ち運べるし、いつでも出してちょっとメモることができる。1冊に何でもメモっておけば、時間軸のみの一軸問題ですので、いつでも読み返すことができます。

3. **教務委員会としての仕事**

- カリキュラムの検討一常によりよい教育システムを目指して更新されてきたカリキュラムと、私学の中で特筆すべき教授陣容、親切な教務職員、これらが協力して検討をし、実施をしてきました。
- 特に高校までの教育プログラムの内容を踏まえた大学としての教育プログラムの開発（特別クラスの実施など）円周率の π が3になり、ラジアンという概念が高校で教えられなくなるという、高校までの新カリキュラムに対応した大学としてのカリキュラムを検討しています。1階の食堂の壁に刻まれた数百桁の円周率には、 π は3ではないんですよという主張が込められているのではとも感じています。
- 国際的に認知された工学教育（質の保証）JABEE
- 学習を支援する活動（たとえば、学習支援室の設置）放課後に院生を中心としたアシスタントが科目ごとの学習相談に応じてくれます。また担当の先生への相談の窓口になってくださいます。さらに、各学科ではオフィスアワーと称して皆さんのために部屋で待機する時間を設けたり、アドバイザ制度といって、先生方が個別の相談に講じてくださるシステムをとっている学科もあります。大いにこれらのシステムを活用してください。
- 英語学習：コミュニケーションスキルを中心に、放課後の自学自習を含む効果的プログラム→TOEIC など外部試験による実力判定→社会が求める最重要能力のひとつ。600点をめざせ。
- 大学院との連携（たとえば、学部時に大学院の講義を受けられるようにすることの是非）
- 他のグループの検討の成果ですが、教育職員の教育力の向上施策

→教育業績評価の実施。あなた方の授業改善アンケートも考慮される。

4. どのように勉強するか

よく考えるということに尽きる。

考える→書いてみる→調べる→尋ねる→良く聞く（→実行する）→考える

調べる前に良く考える→自分の考えのどこがいたらないかを知ることができる。

人にものを尋ねるときには、可能な調査をしてから、が礼儀。たとえば、本を読めば書いてあることを、読まずに人に聞くのは、怠けているだけ。

良く聞くということ→分かったつもりにならないで、分かるまで食い下がる。

実行してみて、不十分であればまた考える、という繰り返し。

5. どのように先生を使うか

先生は経験と知識を豊富に持っている。知識を吸収するためには、**本と先生を併用**するのが良い。先生の知識は、偏っていたり不正確だったりすることもある。経験は大切であり、貴重である。先生の体験談によく耳を傾けてください。そして、実験や実習などの科目での体験はもちろん、インターンシップ、現場見学、国際研修など、みずから体験をする機会を積極的に活用して下さい。与えられたものより、自分から進んでもった経験から得られる果実はとても大きいと考えます。

また、**大学は教わる場所ではなく、自分で学ぶところです**。先生方は、よりよい授業をするよう努力はしますが、無免許であります。わかりにくい授業はむしろそれを乗り越えて理解するハードルを与えてくれているという理解をするべきです。わからなくなったら、考えるサイクルに入ってください。

6. 授業でもメモ魔になる。ただし、専用のノートに。**自分流のノートを作るべし**。

黒板にかかれたことを写すのがノートではない。先生が話すこと、映写すること、その中から重要なものを、自分のわかる言葉や絵を使って再現するのが、**take note** である。一生大事に保管して、ことあるごとに読み返すことのできる貴重な財産になると信じます。試験前にあってあわてて人のノートをする人がたくさんいるようですが、そのような人が目標レベルに到達するとは到底思えません。仮にラッキーで単位を取得しても、何の価値もないものであります。

7. 学修要覧は契約書

あなた方が卒業するまでの4年間の教育プログラム。学科には教務委員、クラス担任（より広い範囲）、教務課職員。皆さんを大人として対応します。先ほど言った、考える→調べるという循環プロセスを忘れないでください。

あなた方が本大学のそれぞれの学科を選んで入学したことにより、この契約は発効していると考えていいと思います。しかし、一方で、アブラハムリンカーンはこのように言っています、「相手の承諾なしに他人を統治あるいは支配することができるほど立派な人間は一人もいない」これを今の私たちの置かれた状況に当てはめてみれば、学生さんが主体である教育機関であるべきだということだと思えます。決して皆さんを支配するつもりはありません。学生さんたちと教職員が共同して作り上げる教育プログラムであると考えています。

8. 私は人生は積分値で評価されると考えています。微分ではありません。

ここで、横軸は時間軸ですね。縦軸は目標に対する成果と考えればよいと思います。微分というのは傾き、あるいは増加率ですね。瞬間の勢いといってもいいと思います。積分値は、グラフの下の面積ですね。積分値はトータルの達成度であると思います。傾き、すなわち勢いがずっと大きな人は積分値も高くなりますから問題ないんです。しかし、ひとは、山あり谷ありで、傾きあるいは微分値は、大きくなったり小さくなったり、場合によってはマイナスの傾きで下降してしまうこともあります。ですから、我々のある年齢での目標への到達度はそれぞれことなることになります。しかし、心配は要りません。いつでも、がんばりさえすればすぐに勾配は上向かせることができますし、その状態をなるべく持続させることによって、確実に目標が達成される方向に向かいます。瞬間の微分値を高くして、目標到達に向けて努力をしてゆきましょう。

9. 最後になりますが、どうか、4年たって卒業するときの自分の姿を描いてください。卒業後10年たったときの姿、30年たったときの姿を描いてみてください。自分が生きた証をどのようなかたちで後世に残してゆくかを考えてみてください。いまから。そうすれば、その目標に向かっての努力は楽しいものになるはずですよ。楽しくなれば、もう成果は保証されたようなものではないでしょうか？

Footprints on the sands of time 時の砂漠に残る足跡：ヘンリ・ロングフェロー（米国詩人）